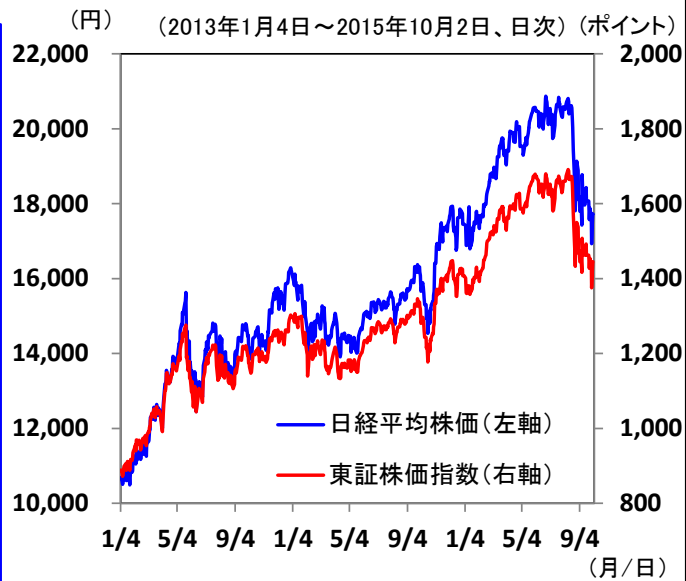


## (1) 日本の株式・債券市場

### 株式市場の動き

■先週の日本株式市場(日経平均株価)は大きく上下に変動したものの、結局前週末比小幅下落となりました。週前半は、中国をはじめとする世界の景気への懸念や欧米株価の下落、国内企業の業績への懸念などから売りが優勢となり、28・29日(月・火)の2日間で約949円下落しました。その後は、米株高や中国経済指標の改善でリスク回避姿勢がやや後退して買われ、30日・10月1日の2日間で約791円の上昇となりました。2日(金)は、米雇用統計を前に様子見傾向が強まり、小動きで推移しました。(週末引け値:17,725.13円)

■週間では、日経平均株価は0.87%の下落、東証株価指数は0.61%の下落でした。



	9月25日	10月2日	騰落率
日経平均株価(円)	17,880.51	17,725.13	-0.87%
東証株価指数(ポイント)	1,453.81	1,444.92	-0.61%

(出所:ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成)

### 債券市場の動き

■先週の日本債券市場(10年国債金利)は低下しました。週初は、10年債の入札を控えて弱含みで始まり、金利は上昇(28日引け値:0.358%)しました。29日(火)は欧米や国内の株価が大幅に下落したことで買いが優勢となりました。週末にかけては、10月1日(木)の10年国債の入札が無難な結果であったことから買いが継続しました。また、年内の米利上げ観測がやや後退していることで円高の可能性が意識され、物価上昇目標達成のために日銀が追加緩和策を実施するとの見方も買いにつながり、金利は低下しました。(週末引け値:0.317%)

■週間では、10年国債金利は0.007%の低下でした。



	9月25日	10月2日	変化幅
日本10年国債金利 (%)	0.324	0.317	-0.007

(出所:ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成)

### 当面の主な市場イベント(日本)

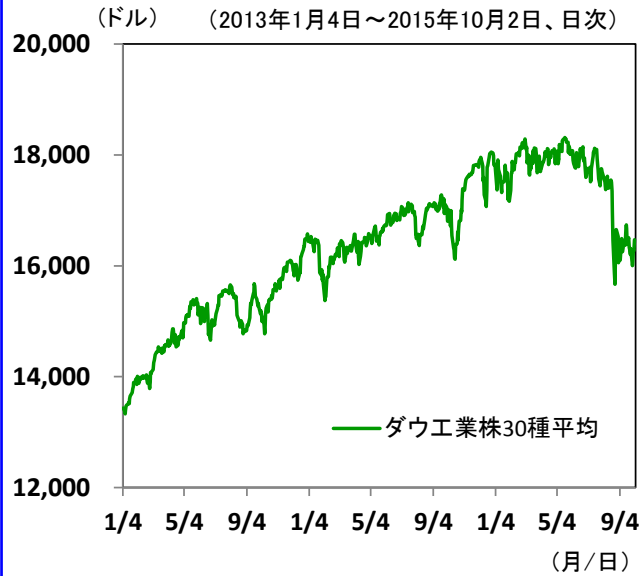
10月6・7日(火・水) 日銀・金融政策決定会合  
8日(木) 機械受注(8月) 国際収支(8月)

## (2) 米国の株式市場

### 市場の動き

■先週の米国株式市場(NYダウ)は上昇しました。28日(月)は、世界の景気への懸念から欧州株価や商品市況が下落したことで売られました。週半ばにかけては、欧州やアジアの株価が反発したことや米消費・雇用関連統計の改善が意識されて上昇しました。ただ、中国をはじめとする世界景気への懸念や週末の雇用統計の発表などから様子見傾向となり上値の重い展開となりました。2日(金)は、米雇用統計が市場予想を下回ったことで一時売られましたが、年内利上げ観測が後退したことで一転して買われ、結局前日比約200ドル高で引けました。(週末引け値:16,472.37ドル)

■週間ではNYダウは0.97%の上昇となりました。



	9月25日	10月2日	騰落率
ダウ工業株30種平均 (米ドル)	16,314.67	16,472.37	0.97%

(出所:ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成)

### 当面の主な市場イベント(米国)

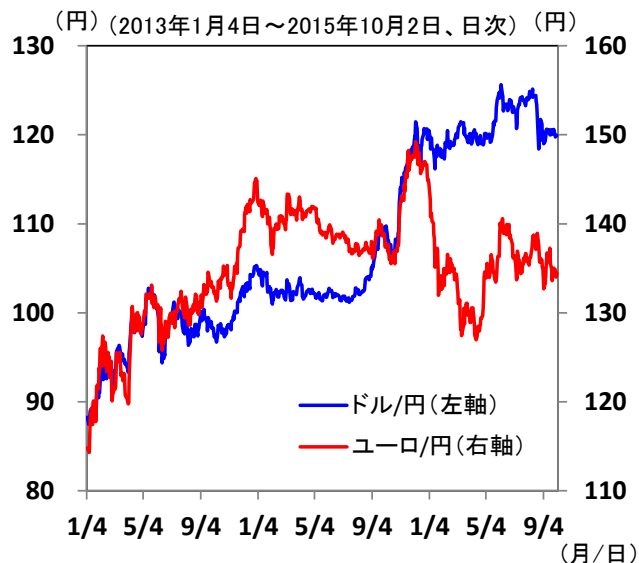
- 10月5日(月) ISM非製造業景況指数(9月)  
米労働市場情勢指数(LMCI、9月)
- 6日(火) 貿易収支(8月)
- 8日(木) 新規失業保険申請件数(前週分)  
米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨

## (3) 外国為替市場

### 市場の動き

■先週のドル円相場はやや円高でした。週初は、世界景気への警戒感などから米長期金利が低下し、ドル売り円買いが優勢となりました。その後は、ドル買い円売りの場面もありましたが、米利上げを巡る不透明感や米雇用統計の発表を控えて低調な取引が続き、119円台後半から120円台前半の狭い値幅での動きとなりました。2日(金)は、当初低調な雇用統計を受けてドル売り円買いが進み、一時118円台半ばまで円高が進む場面もありましたが、その後ドルが買い戻され、結局119円85銭～95銭で週の取引を終えました。

■週間では米ドル円は0.56%の円高、ユーロ円は0.42%の円高となりました。



	9月25日	10月2日	騰落率
米ドル(対円)	120.59	119.91	-0.56%
ユーロ(対円)	135.03	134.46	-0.42%

(出所:ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成)